

## 石川県における水稲初冬直播栽培の播種適期

### 1 背景・目的

水稲初冬直播栽培は、前年の初冬(11~12月)に播種作業を行い、翌春に出芽させる栽培方法であり、播種作業の分散により更なる規模拡大を可能とする技術として期待されている。主に東北地方等の寒冷地で実施されているが、東北地方よりも冬期の気温が高い本県での播種適期は明らかにされていない。そこで、本県における播種適期を検討する。

### 2 技術のポイント

- (1) 初冬直播では、越冬前の積算気温(播種日から12月31日まで、無効温度10℃)が高くなるほど、越冬後の出芽率が低下する(図1)。
- (2) 日平均気温が10℃以下となる11月下旬以降に播種することで、越冬後の出芽率は最も高くなる(図2)。
- (3) 「ひやくまん穀」は、「コシヒカリ」、「ゆめみづほ」よりも、越冬後の出芽率が低くなる傾向がある(図1、2)。

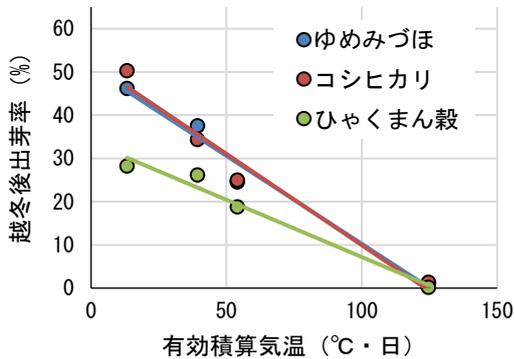


図1 積算気温と越冬後出芽率

有効積算気温：播種日から12月31日までの日平均気温(無効温度10℃)の積算(大平2025)

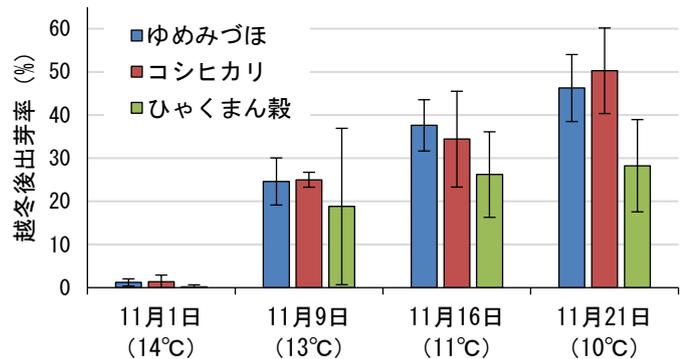


図2 播種日別の越冬後出芽率

種子100粒(前年産、チウラム塗抹)を手播きして翌春に出芽率を調査、4反復の平均値±標準偏差、2023-2024及び2024-2025年の試験結果、括弧内の数字は日平均気温(金沢市の過去15年平年値)

### 3 成果の活用と留意点

- (1) 年次によって気温は変動するため、実際の播種日は直近の気温予想から判断する。
- (2) 播種適期よりも早く播種する場合や品種に「ひやくまん穀」を用いる場合は、越冬後の出芽率の低下を見込んで播種量を増やす。
- (3) 排水性の悪いほ場では越冬後の出芽率が低下する傾向があるため、明渠等の排水対策を行うとよい。

問合先：作物研究部 作物チーム TEL 076-257-6911

担当者：有手 友嗣・植松 繁・松崎 兼秀

※本研究は、生物系特定産業技術研究支援センター(生研支援センター)「R6 オープンイノベーション研究・実用化推進事業 JPJ011937」の支援を受けて行った。